

5月19日(金) ビッグ・U(和歌山県立情報交流センター)

がん・終末期における苦痛マネジメント というテーマで、和歌山病院
がん性疼痛看護認定看護師 加納 昌明 先生に講義を行っていただいた。



《 講義風景 》

72名の受講者が参加された。

痛みの評価方法、オピオイドや医療用麻薬など薬剤の作用副作用、終末期に出現する症状と対応方法など幅広い項目を講義していただく。たくさんのスライドを用いて、とてもわかりやすい講義であった。それぞれの受講者が一生懸命聞き、熱心にノートをとっていた。

また、病棟での先生自身の関わりの話も聞くことができ、身近に感じる事が

できる講義内容であった。

受講者は休憩時間に、講師に積極的に質問をしていた。
講義後の質問タイムでは、それぞれが困っていることを具体的に質問し、講師に丁寧に回答していただき全員で共有した。



《質問している様子》

研修終了後も質問が多く、教育委員の方も参加し、17時頃まで受講者の相談にのっていただいた。

アンケートからも、充実感が得られた研修であった、ねらいに沿った学習ができた研修であったと回答があり、研修であったと思われる。

5月20日（土） 看護研修センター

看護業務基準 というテーマで日本看護協会 看護開発部 看護業務・医療安全課課長の **久保 祐子** 先生に講義を行っていただく。参加者は64名で講義とグループワークが行われた。

改定のポイントとしては4つあることや、活用状況、看護補助者活用推進のための業務基準についても説明してくれた。

日本看護協会によくある質問として、「看護業務基準ってこれが全文？」「看護業務基準の中身がほしいが何を見ればいいのか？」などがあるとのこと。

「看護業務基準はこれが全文です。」と答えますという裏話も話してくれた。

(実際の対応ではもっともっと詳しく丁寧に対応してくれている)

また、後半では役職別に分かれてのグループワークで、1 看護業務基準 2016年改訂版を自部署での業務と照らした時に、どのような読み方ができるか

2 看護業務基準 2016年改訂版を自施設、自部署でどのように活用できるか。

その際の課題はどのようなものがあるか。という2つのテーマで意見交換を行った。管理者研修という事で、グループワークは最初から活発な意見交換が行われていた。

意見交換後にはいくつかのグループが発表するという形で終了となった。半日という短い時間の研修だったが、各職場に持ち帰り実践できる内容の研修だった。



《 講師の講演の様子 》



《 講義の様子 》



《 講師も一緒にグループワーク 》



《 発表の様子 》



《 看護部長グループの発表で終了 》